

## ホトトギス (不如帰)

名前の意味：花びらの <sup>いみ</sup> 紫 <sup>むらさき</sup> 色の <sup>ほんてん</sup> 斑点が鳥のホトトギスの <sup>むね</sup> 胸にある羽根の色ににているので、名付けられた。

分類：双子葉類、ユリ科、ホトトギス属

(ユリ科の <sup>さいばいしょくぶつ</sup> 栽培植物：アスパラガス、ネギ、タマネギ、ニラ、チューリップ)

好きな場所：湿った <sup>がけ</sup> 崖、林の縁

分布：本州、四国、九州

原産地：昔から日本に生えていた ( <sup>じせい</sup> 自生 )

特徴：一面に毛の生えた葉、白くて <sup>むらさき</sup> 紫 <sup>ほんてん</sup> 色の斑点がある花。

種子の運ばれかた：そのまま下に落ちる

花弁の数： <sup>りべん</sup> 離弁、 <sup>れつ</sup> 6 裂

花の時期：9 - 11月

食べ方：食べられない

見分け方：ヤマホトトギスは、 <sup>くき</sup> 茎の毛が下向きで、花びらが反り返る。台湾ホトトギスは、背が高く、花が上部にまとまってつき、花が白くない。

見つけやすさ ★★★

見分けやすさ ★★★

<sup>そうごうなんいど</sup> 総合難易度 ★★★

(★が多いほど量が少なく、見分けにくく、難易度が高い)